TSUKU COMM【ツクコム】

TSUKUBA COMMUNICATIONS 2016 ▶▶▶

SUMMER

VOL. 32

筑波大学
University of Tsukuba

筑波大学
University of Tsukuba

IMAGINE THE FUTURE.

目次

04 聴／高橋 晶 准教授
08 TSUKUBA OBOG／菅原 大輔 氏
10 附属学校の名物先生登場／
髙尾 政代 教諭　附属久里浜特別支援学校
12 躍動する！筑波大生／金子 雅紀さん・瀬立 モニカさん
14 Homeland／イラン ベヒラード・ニルファーさん
16 TOPICS
20 受賞　Award and Prizes
22 海外オフィスから
23 紫峰会基金・茗渓会
24 ツクバでツナガるリレー→エッセイ
26 Media Appearances
27 Event Calendar

○今号の写真撮影協力：生命環境系

• 表紙
江面 浩教授

• 裏表紙
柴 博史教授、上松 佐知子准教授、
宮村 新一准教授、石川 香助教

• Event Calendar
野村 暢彦教授

SHOTAKAHASHI

平時は災害のために、
災害は平時のために

高橋 晶 准教授
（医学医療系）

PROFILE

2008年　筑波大学　大学院　人間総合科学研究科　疾患制御医学専攻
精神病態医学分野　修了
2012年　筑波大学　医学医療系　臨床医学域　災害精神支援学講座　にて勤務
2016年　4月より、筑波大学　医学医療系　臨床医学域　災害・地域精神医学講座
（茨城県寄附研究部門）　准教授

茨城県立こころの医療センター　地域・災害支援部長・室長、筑波メディカルセンター病院
精神科　非常勤医師、DPAT事務局アドバイザーも務める

聴

喪失から再生へ
こころを守るスペシャリスト

命にかかわるような経験や、家族や財産を失うといった出来事は、誰にでも起こり得ます。自然災害もそのひとつ。被災者は身体だけでなくこころにも大きなダメージを受けます。しかし防災用品は予め準備していても、こころの備えはなかなか難しいものです。精神医療チームを率いていち早く被災地に向かい、災害によって引き起こされる悲しみや憤り、怒りからくるストレスを乗り越えられるよう、人々のこころを支える最前線に立っています。

■ 災害時の精神医療

「こころのケア」という言葉をよく聞くようになりました。災害や事故に遭遇した時に「こころ」が被る傷。身体の傷と同じように、適切な対応や治療が必要です。特に東日本大震災の後、経済や物資だけでなく、こころの復興にも注目が集まりました。2012年、筑波大学に災害精神支援学講座が開設された背景には、被災県であると同時に支援県でもある茨城県という立地もあったのでしょう。

日本は世界でも有数の自然災害大国ですが、災害時の精神医療については体系化されておらず、これからの分野です。災害医療の専門家や、世界中で起きている大規模な山火事や地震、水害、テロの発生地などに赴き、知見を集めるところからのスタートでした。その中から見えてきたのは、人がいったん大切なものを失い、再び状況に適応していく「こころの復興」のストーリーがそれぞれにあり、それは共通性をもつということでした。

従来の災害精神支援の流れから、現在はPFA（Psychological First Aid）つまり「心の応急処置」という考え方がトレンドになっています。災害に限らず、紛争や事故などの経験がそのベースにあります。被災地においては、まず衣食住、生活に必要な物資を支援し、被災者の求めるものを直接見聞きして適切なところにつなぎ、そうしてこころのケアに取り組みます。このとき、価値観を押し付けないことが大切です。良かれと思って無理に慰めたり、強いアドバイスをして、こころの傷を広げてしまわないよう慎重に接します。

■ DPAT出動！

災害時には医療体制もうまく機能しなくなることがあります。大勢の助けられるはずの命が助けられなかった阪神淡路大震災での苦い経験をきっかけに発足したのがDMAT（Disaster Medical Assistance Team、災害派遣医療チーム）です。東日本大震災でも多くのチームが現地に入り、たくさんの命を救いましたが、その一方で、津波から助かった人たちに対するその後の精神的なケアが課題となりました。

こころの支援をするグループはいくつもありましたが、医師や看護師から心理士やソーシャルワーカー、それに宗教家まで、所属も専門性も様々で、活動場所にも、支援内容にも偏りがありました。そこで、質の担保された精神医療の支援チームを派遣する仕組みとして、一元的な指示命令系統の下で活動する、DPAT（Disaster Psychiatric Assistance Team、災害派遣精神医療チーム）が組織されました。精神科医・看護師などの医療者と、物資の調達や他チームとの連絡などのマネジメン

ト業務を担う人材からなる、専門的なチームです。

筑波大学でも2チームを結成し、研修や訓練を重ねて整備を進めていた矢先に発生したのが熊本地震でした。DMATはすでに全国で1000以上のチームがあるのに対し、発足間もないDPATはまだ100チーム程度。約25チームが1～2週間ずつ交代で活動しますから、まさにオールジャパンでの支援です。もちろん筑波大学からも、県立こころの医療センターとの協力で3チームが招集・派遣されました。

■ 医療をつなぐ長距離リレー

「72時間の壁」と言われるように、災害時の人命救助は最初の数日間が勝負です。しかしこころの支援は、その後に長く続いていくもの。被災のショックはもとより、うつ病、アルコール関連精神障害、認知症、トラウマ関連障害、睡眠障害など幅広い精神医療も必要とされます。DPATは、避難所や病院を回って医療活動にあたりますが、その期間だけで治療が完結するわけではありません。次のチームへ橋渡しをし、だんだんと近隣エリアのチームへ、そして最終的には地元の医療体制の中へと引き継ぎます。バトンをつなぎながら長距離を走るリレーのような活動です。

精神医療では、対象者・患者さんが自発的に医師を訪ねないこともあります。自分ではこころの不調に気付かないこともしばしばです。いつもと様子が違うことに気付くのは周囲の人たち。そこから医師、医療へとつながっていきます。これも医療のリレーです。災害時は、避難所にいる保健師などが目を配っていますが、日々の家庭や職場でも同じです。こころの健康には、日常的にコミュニティの中で互いに気

▲拠点本部で全国のDPATチームと活動

遣うことが重要なのです。その意味を込めて、「災害精神支援学」から「災害・地域精神医学」へと講座の名称も変更されました。

■ 平時は災害のために、災害は平時のために

精神科医を目指したのは、様々な決断を下して行動し、人生を切り拓いていく、という人の脳の働きに興味があったからです。その仕組みが知りたいと、神経内科や脳外科など脳を扱う医療の中から精神科を選びました。普段は精神科医として、日常診察や認知症の診断・治療を専門に診療にあたっています。

▲熊本震災に早期に派遣された茨城県DPATチームメンバーとともに

▲DPATは日の丸を背負って活動する
（ウェア提供：DPAT事務局）

「人生は小さな災害の連続」とも言えます。私たちはそんな小さな災害を乗り越えて毎日を生きていく力を持っていますが、時には負けてしまうこともあります。ですから、平時の医療をしっかり行うことが、災害への備えになるのです。また、災害時の経験は平時の医療にも還元されます。平時と災害時を連続的に理解すれば、医療全体のレベルアップが図られるはずです。日本人は、長い歴史の中で多くの災害を克服してきました。そう考えると、災害医学は古くて新しい分野。ただ、地道で根気のいる精神医療には、まだまだ知見も人材も必要です。

地震、竜巻、水害と、災害に関連の深い土地柄の茨城県で暮らしていると、災害精神医学の重要性が実感されます。DPAT活動を通して、全国の医療機関とネットワークを構築し、精神医療の支援体制を強化すること、そして来たるべき災害に向き合っていけるよう、この分野の先鞭をつけていくことが目標です。

DAISUKE SUGAWARA

TSUKUBA

OBOG

筑波大学の追越学生宿舎からほど近くに、小さなオーガニックベーカリーがあります。「Bäckerei BROTZEIT（ベッカライ ブロートツァイト）」は、パンの街つくばの人気店の一つで、週末になると県外からも客が訪れます。
パンの味の秘訣は、菅原さんの人柄に息づくリベラルアーツにありました。

PROFILE

菅原 大輔 氏

Bäckerei BROTZEIT 店主

1976年　福島県会津若松市　生まれ
1995年　筑波大学第二学群生物資源学類入学
1999年　〃　卒業
〃　日本菓子専門学校入学
2000年　日本菓子専門学校卒後、都内ベーカリーで修行
2004年　ドイツ・ケルンで修行
2005年　帰国
2006年　「Bäckerei BROTZEIT」開店

「パンは人生だ」

— もともとベーカリーや食品業界に興味があって、本学の生物資源学類に入学したのですか？

そういうわけではなくて、食品というよりはどちらかというと環境問題に少し関心がありました。高校生の頃に『森の生活』という本を読み、著者のヘンリー・デイヴィッド・ソローが森の中に丸太小屋を建てたり、自給自足の生活をした経験が描かれているのですが、それがとても面白くて、進学先として生物資源学類に行ってみようかなって。ちょうど生態系の保護に関心が高まった時代でした。でも大学時代はそんなに熱心に勉強をしたわけでもなくて、好きな音楽を聴いたり、同好会でサッカーをしたり、アルバイトしたり、フワフワした時間を過ごしていましたね。それで就職活動をするっていう選択肢もなく、大学院への進学を決めました。無事に合格して指導教官に挨拶に行って、話を聞いているうちに「すみません、やっぱり辞退します」ってなって。

— え、進学しなかったのですか！？

はい、2年間これを続けるのは無理だなって。かといって何がしたいっていう具体的なプランがあったわけでもなく、ただ、音楽も食べることも好きだったので、カフェのような「場」を作れたらと思っていました。それで、子どもの頃から近所付き合いのあった『ウィーン菓子シーゲル』（つくば市千現）店主の川中子茂さんに「自分の手で何かを作る仕事をしてみたいんだ」なんて、漠然とした将来像を相談したら、「それなら、製パンとか菓子の専門学校に行ってみたらどう？」ってご紹介いただきまして、情けないのですが、とにかくやってみようという思いで親に通わせてもらいました。

— 大手メーカーや大規模店への就職は考えなかったのですか？

専門学校の仲間たちは就職活動をするんですけど、僕は考えませんでした。海外の大学のある街って、小さな素敵な店がいっぱいあるのに、なんでつくばには少ないのかなと…。それならばいつか自分の育ったこの街で小さなパン屋をやってみたいと思うようになっていました。

専門学校を卒業してからは、東京で魅力的だなと思ういくつかの店で修行しました。長い労働時間の中でヘトヘトでした。その後、ドイツのケルンで1年半修行しました。そこでの職人の暮らしぶりはまた、日本とは違っていて

面白いと思いました。ベーカリーの職人は決まった時間の中で、ものすごく忙しく作業して定時にきちんと終わって帰るという、その徹底振りに驚きました。こういった経験の中で、自分がどんな店を持って、何を作っていきたいかというのがだんだんはっきりとしてきました。修行時代に勉強になったこともたくさんありますが、「おかしいぞ」と思うこともありました。『職人は安い材料でいかにうまいものを作るかだ』と言われたことはずっと心に引っかかっていて、店を出す際に、僕の店ではそれはやめようと思いました。

— 原材料や生産地などをなるべく多く伝えようとする店舗が多いなか、菅原さんの店の売り場は6坪と小さく、表示もとてもシンプルです。ところがお客さんは商品を丁寧に選び、市内にとどまらず遠方からもまた求めてきます。どんな工夫をされているのでしょうか？

決めていることがいくつかあって、「使いたい材料を、やりたい方法で、作り続けること」を大切にしています。ドイツで出会ったライ麦と穀物やフルーツを混ぜ合わせたパンが印象深く、その経験が今のパン作りのベースにあると思います。ただ、日本とドイツではパンの食習慣が違うので日本の土壌やパン食の文化に合うように工夫しています。それから、有機栽培や無農薬のものを使うというのも決めていることの一つですが、健康や安心といったお客さんの価値観に寄り添っているかというと、少し違います。ケルンで修行したのはオーガニックのベーカリーだったのですが、シェフは、当時ファストフードは普通に食べるし、タバコも吸う、恰幅のいい人でした。「店ではオーガニックを使っているのに、シェフはぜんぜん違うんだね」と僕が冗談で聞いたことがあるんです。すると彼が言うには、もともと大学で農学を学んで農業を志していたけど、事情があってパン屋になった。自分は生産者にはなれなかったけれど、環境を守っている農家を支持していきたい。つまり自分が長生きしたいとか、健康的に過ごしたいというわけじゃなくて、有機栽培や無農薬でその土地を守ってくれている生産者が、ずっと作り続けられるように。生産者を支持する証として、オーガニックを使っているというのです。

僕はこれに共感しました。無農薬や有機肥料で小麦を作るこの生産者がいるから、その材料に合ったパンを作るという発想です。環境問題や環境保全について、大学院を辞退してしまった僕は学術的に何も貢献できませんでしたが、パンを作りながら役に立てる方法を探しています。

— 当初、音楽と食事のある居心地のいい「場」を作りたいと志していらっしゃいましたが、店内には「貸し本」や「野菜コーナー」といった、パン屋らしからぬ棚がありますね。

もちろん誰にでも貸すということではなく、その品物に共感できるかという基準はあるのですが、自由に使ってもらっているというような空間です。筑波大を卒業して飲食業や流通業を始めた方々、アルバイトの学生さん、地域の生産者といろんなつながりができてきて、また店を通じて僕以外の人たちがつながるということもあります。そういう意味では、面白い「場」になってきているのかもしれません。エリアとしても小さな店が少しずつ集まって、なんか面白い街になっていくという展開に期待しています。まだしばらく、つくばのこの場所で、僕の店の役割があるのかなって思っています。

— ご自身を振り返って、どんな経験が菅原さんを職人として成長させたと思いますか？　学生へのアドバイスをこめてお願いします。

見習い時代に、数軒で働きましたが、どこに行っても役立たずなんです。多少は改善されるけれども、基本、「役立たず」です。でも、できないとしても、その店のために何ができるのかを多少なりとも考えながら働いてきたことがよかったなあと。今ふりかえれば、そう思います。自分の置かれている状況が、理想や想像と違ったとしても、最後の部分は自分を曲げずに、それでもその店、会社、仲間のために何ができるのか。続けていくことで、できるようになると気づくこともたくさんあります。結果を急いで求めすぎないで下さい。

附属学校の

名物先生登場！

VOL. 22

本学には11の附属学校があります。それぞれの分野でわが国の教育をリードしており、全国でも有名な先生たちが大勢います。各学校で活躍する名物先生を紹介いたします。

髙尾（たかお） 政代（まさよ） 教諭

筑波大学附属久里浜特別支援学校

福岡県生まれ。鹿児島県内の公立や大学附属の特別支援学校に長年勤務。趣味は旅行。若い頃は、あちこちの海でシュノーケリングをして回った。今は、陸で、みんなで語り合いながら、美味しいビールを飲むことが好き。モットーは、子供や同僚と共に、常に成長すること。

ひとつづきの大きな教室を3つに仕切ったうちの真ん中に、電子ピアノと小さな椅子が6つ並べられています。高尾先生がピアノを弾き始めると、iPadで動画を見たり、本を読んだりしていた子どもたちがそろそろと集まってきました。午後の授業は音楽です。一人が前に出て絵本を見せながら、みんなで歌に合わせていろいろな動物の動きを真似てみます。キリン、ゴリラ、ロバ…最後は人間です。それぞれの動物の特徴がよくわかる動きですが、元気の良い子も、なかなかエンジンがかからない子もいます。

次に太鼓です。先生のリズムに合わせて、太鼓を叩きます。初めは小さな音でテンポもバラバラだったのが、少しずつ力強い響きに変わっていきます。そうしてみんなで叩いているうちに、だんだんと音が揃って調子も出てきて…最後の一叩きは全員の息もピッタリとかっこよく決まりました！さっきまで冴えない表情だった子も満足気です。

授業中、途中で席を離れてしまったり、急に泣き出したりする子もいます。しかし、目配りはしつつも、無理に授業に戻らせることはしません。彼らなりの理由があっての行動ですから、その気持ちを汲み取ることが先決です。自分では十分な表現をすることができなくても、先生が適切に代弁してあげられれば、コミュニケーションは成立します。何かを強制したり禁じたりするのではなく、自由な行動をなるべく許容しながら、意思疎通のできる関係を構築することが大切なのです。

短い時間の中で、歌もあり、楽器もあり、体も動かす、アクティブで盛りだくさんな授業。クラスの人数が少ないからこそ、子どもたちの得意なことや苦手なことを取り混ぜながら、全員が自分の目標を達成し、主役になれる時間を作ることができます。授業の締めくくりには、楽しかった活動や上手くできたことをそれぞれ振り返って発表します。髙尾先生も、一人一人に褒めたり励ましたり声をかけ、次のステップに進めるように促します。

小学5年生のクラスは、4人の児童を高尾先生も含めた3人の担任で指導しています。音楽や図工の授業では主担当を決めていますが、それぞれの先生が、登校から下校までの間、気を抜く間もなく、付かず離れず子どもたちと一緒に過ごし、ちょっとした様子の変化も見逃さずに、絶妙のチームワークで臨機応変に対応します。先生同士での定常的な情報交換も欠かせません。

子どもとの接し方は先生によって様々ですし、他学年の子どもたちとの交流や、校外へ出かける機会もできるだけたくさん作っています。それが、人との関わり方の多様性を知るきかっけにもなります。

多くの自閉症児は、言葉を発すること自体に困難を抱えています。人とコミュニケーションをとりたくても、言葉が出ないのです。それぞれの子どもが、どのくらい言葉を知っているのか、正しく理解できているかを見極めることも難しい、それでも高尾先生は、言葉を話すことをあきらめずにいたいと話します。言葉を獲得し、表現すること、それをつらい訓練ではなく楽しく習得していけるよう、工夫を凝らしながら子どもたちに働きかけます。決まった方法やマニュアルはありません。子どもの状態に応じて、活動の内容や教材の使い方、時間配分を柔軟に展開していくのは、まさに職人技ともいうべきものです。

一言に自閉症といっても、人によって症状は様々です。同じ学年でも、学習のレベルや指導方法が一人一人異なります。けれども障害があるから教えられないということはありません。子どもを理解し、興味関心の在りかや習熟度を的確に捉えて、可能性を少しずつ広げていけるように、指導計画をしっかり作成します。さらに、子どもの成長に伴って、その計画をフレキシブルに変えていくことも必要です。たった4人のクラスとはいえ、丁寧に指導しようとすればするほど、子どもとの関係は濃密になり、体力・気力も消耗しますが、それが特別支援学校の魅力でもあります。

高校の理科の先生を目指していた高尾先生。ところが、教員になって最初に配属されたのは養護学校でした。当時は、障害のある子どもに対しては「育てる」というよりは「世話をする」という接し方が一般的でしたが、指導してくれた先輩教員は、自閉症の子どもがどんな風に考えているのか、思いや気持ちに寄り添う教育を実践していました。その熱心な姿勢に影響を受け、戸惑いながらも、次第に子どもとの関わりや成長を見守ることにやりがいを感じるようになりました。ベテランになった今でも、子どもから学ぶことは尽きません。

特別支援学校では、保護者とのコミュニケーションを密にして、子どもの日々の生活を共有することがとても重要です。卒業後の進路や将来の就労まで意識しながら、時には厳しいアドバイスも伝えなくてはなりません。その毅然とした態度とバイタリティが、保護者や同僚の先生からの絶大な信頼につながっています。自分は決して優しい先生ではないと笑う高尾先生ですが、とても温かい眼差しで子どもたちの成長を見守り続けています。

雷坂 浩之 副校長

高尾教諭は、かつて人事交流で本校に勤務していて、一旦派遣元の学校に帰ったものの、公立の学校を退職して再度本校の採用となりました。こうした教員を本校では「出戻り教員」と呼んでいます。「出戻り教員」というと聞こえが悪い印象ですが、彼女の場合は、今年度の新規採用者でありながらも即戦力となる頼もしい存在です。特に知的障害を伴う自閉症児の実態を分析し、適切な指導計画を立案することが得意で、若手教員への（情け容赦の無い？）アドバイスも的確です。セクハラ紛いの表現はご勘弁をと懇願したのですが・・・、本文推敲中に本人から「出戻りで花婿募集中」と紹介してくれとの要望が出されました。こんなお茶目さも含め、彼女は本校の将来の名物教員候補の一人であることは間違いありません。

金子 雅紀

無名の選手から世界の舞台へ
水泳200M背泳ぎで、
自己新記録・メダルを狙う

躍動する!

金子雅紀さん（人間総合科学研究科 博士前期課程2年）は代表選考を兼ねた4月の日本選手権で派遣標準記録を突破し、リオ五輪行きを射止めた。直前の東京都新春大会で短水路日本新記録をマークし、大舞台で実力を発揮できる選手へと成長している。高校時代の成績はジュニアオリンピック全国5位と実力者ひしめく水泳競技においては輝かしい実績とは言えない。入学当初は周囲の実力に「ビビリまくり」、質の高いトレーニングに「ヘロヘロ」だったのだが、それも夏の合宿まで。技術やトレーニングの目的を理解することで壁を乗り越えた。金子さんの探究心には定評がある。現コーチの仙石泰雄助教（体育系）は、入学当初からの彼の泳ぎを見てきた。研究者としてトレーニングを探究する仙石コーチと、よりよい泳ぎを求める金子さんはともに成長を続けた。

新しい理論は必ずしも成功するとは限らない。しかし挑戦を続けるのは、トレーニング法も選手も進化の途上だからだ。「ありきたりですが、研究と実践が近い筑波大の環境は強み。他の研究室の実験に参加してフィードバックされるデータは貴重です。僕の場合、短い練習時間で効率的にやりたいタイプだし、筑波大の練習は僕には合っています」と語る。実際に授業で出会った自律訓練法を習得するため他の研究室の勉強会にも参加した。今では体の隅々に血液が行き届く感覚がわかるという。レース前、ライバルと待つ控室は一種独特な雰囲気だ。しかし金子さんに特別な準備やルーチンは必要ない。ただ自分の体を感じ、次の泳ぎを想像する。

今や日本中から声援を受ける。次世代のトップを目指すジュニア選手と泳ぐとき、彼らの強いまなざしに「僕が知っていることは全部伝えたい」と思う。「この中から、ふとした拍子に突き抜けられる選手が生まれたらいい。チャンスは必ずある。僕のように」。エールをもらう日本代表は、同じくエールを送る存在でもある。金子さんが応援している人は誰かと問うと、「有名な人ではなくてもいいですか？」と前置きして「同期です」と答えた。「同じくリオでパラリンピック水泳50M、100M自由形に出場する山田拓朗選手、マスコミや企業に就職した同期には活躍が楽しみな仲間がいます。いつかそれぞれが何かを成せたと思えた時、みんなで語り合いたいねって話しているんです」。

リオ五輪は、まだ途中のステップ。目標は「オリンピック準決勝で自己ベスト、決勝でさらにその記録を超えること。それができればメダルに届きます」。勝つための準備を一つ一つ整えたあと、勝利のチャンスはやってくる。金子さんの大きな挑戦を応援したい。

■ ベストタイム：1分56秒30（200M背泳ぎ）
■ オリンピック（競泳）競技日程
予選：8月10日13：00～
準決勝：8月10日22：00～
決勝：8月11日22：00～
※リオデジャネイロ現地時間

競技成績・各種発表・コンテスト結果

■ 陸上部
第95回関東学生陸上競技対校選手権大会（優勝者）
[男子1部]
[三段跳] 山下航平（体育4）大会新　※リオ五輪参加標準記録突破
[走高跳] 平松祐司（体育2）
[4×100mR] 山下航平（体育4）、山下潤（体育1）、東田旺洋（体育3）、魚里勇介（体育4）
[女子1部]
総合優勝　24連覇
[走幅跳] 山田優（体育4）
[三段跳] 剱持早紀（体育4）
[ハンマー投] 勝山眸美（体育4）大会新
[4×400mR] 薬師寺真奈（体育3）、平野綾子（体育4）、新木詩乃（体育1）、松本奈菜子（体育2）

2016日本学生陸上競技個人選手権大会
[女子400m] 松本奈菜子（体育2）　優勝

第32回日本ジュニア陸上競技選手権大会混成競技
[十種競技] 久家俊希（体育1）　優勝

■ 柔道部
第48回全日本ジュニア柔道体重別選手権大会
関東大会茨城県選手選考会（優勝者）
[66kg級] 田川兼三（体育2）[73kg級] 五十嵐純平（体育3）
[81kg級] 佐々木健志（体育2）[90kg級] 田嶋剛希（体育1）
[100kg級] 石川竜多（体育1）[100kg超級] 根津信太（体育3）
第19回全日本女子ジュニア柔道体重別選手権大会
関東大会茨城県選手選考会（優勝者）
[57kg級] 柴田理帆（体育2）[70kg級] 中江美裕（体育1）

平成28年度関東学生柔道優勝大会
[男子1部]　優勝
[女子5人制]　準優勝

平成28年全日本柔道選抜体重別選手権大会
[女子63kg級] 能智亜衣美（体育3）　優勝

■ バレーボール部
春季関東大学男子1部バレーボールリーグ戦　優勝
【最優秀選手賞】ロジャーズ海（体育4）
【Best of support 賞】筑波大学
春季関東大学女子1部バレーボールリーグ戦　優勝
【最優秀選手賞】塚田しおり（体育4）

筑波大生

瀬立モニカ

「世界を驚かせたい」パラマウントチャレンジカヌーで可能性を魅せる

撮影：越智貴雄／カンパラプレス

学生宿舎に暮らし、授業と週5日のトレーニング。瀬立モニカさんは今年4月に本学体育専門学群に入学し、今や、すっかり「体専（タイセン）」らしい日々を送っている。飛び抜けているのは、1年生にしてパラリンピックを経験するということ。入学時の目標をすでに一つ、叶えようとしている。

リオの大会で初めてパラリンピック正式種目として採用されるカヌーだが、海外では競技人口も多く、体格、パワーは日本選手とは桁違い。それでも「目標は入賞。何より『世界をびっくりさせよう』ってコーチと話しているんです」と瀬立さんは笑う。リオにはメカニック、トレーナー、中学時代から指導を受けてきたコーチと共に挑む。競技艇は持ち込めないため現地調達となる。その際に座席を瀬立さんに合わせて大会までにベストな状態に調整するため、メカニックの役割は重要だ。またトレーナーは理学療法士で動作分析や測定なども行うマルチなスタッフ。コーチとは合宿で部屋を共にする家族同様の信頼関係だ。「チャレンジできるのは、周りの方々のおかげです。大学でも、実業団選手を経て入学した人や医学部を志していた同級生と接して、私も目指していることは諦めないでやってみようと強く思うようになりました」。

中学時代、教師に勧められたのをきっかけに競技を始め、「世界を狙うだなんて、全く考えてもいなかった」のだが、ケガで運動機能に障害をもってから再びこの競技に出会う。「経験があったから何とか乗れました」というのは、競技用の艇は底が細く、バランスをとるのが非常に難しい。運動障害がある場合は艇と体を固定するため、転覆すれば命にかかわる。競技者は、その危険と恐怖に立ち向かい、自らの可能性を出しつくす。障害者カヌーが「パラマウント（＝最高の）チャレンジ」と呼ばれる由縁だ。

200Mのタイムを競うスプリントレースでは、いかに水を捉え素早くスピードに乗れるかがカギとなる。瀬立さんはスタート時に「出遅れた」と強く意識しすぎて惜敗した経験から、メンタル強化を課題としている。授業で、「レースに勝つことではなく、レースに臨む自分の姿そのものに、社会的な価値を見出すことで、緊張に支配されなくなる」と教わり、それをきっかけにアスリートとして社会貢献を考えるようになった。「私がリオ・パラリンピックで経験する選手村や、開会式のことなどを大会後に子どもたちに話したい。カヌーの難しさと面白さ、パラアスリートの凄さを伝えたいです」。瀬立さんはリオにフォーカスしつつ、その先の東京大会を見据えてチャレンジを続けている。

■ 戦績
2016年 世界パラカヌー選手権（ドイツ）女子KL1　10位
■ パラリンピック（カヌー）競技日程
予選：9月14日9：00～
準決勝・決勝：9月15日9：00～
※リオデジャネイロ現地時間

■ 男子バスケットボール部
第65回関東大学バスケットボール選手権大会
［男子］　優勝
［最優秀選手賞］馬場雄大（体育3）
［優秀選手賞］満田丈太郎（体育4）、杉浦佑成（体育3）

■ 水泳部
第92回 日本選手権水泳競技大会
（兼第31回 リオデジャネイロオリンピック競技大会代表選手選考会）
［男子200m背泳ぎ］金子雅紀（院2）2位　※リオ五輪出場決定
2016年度関東学生水球リーグ戦　準優勝

■ 女子ハンドボール部
関東学生ハンドボール連盟2016春季リーグ戦　準優勝
［優秀選手賞］岩崎成美（体育4）
［特別賞］田村美沙紀（体育4）
［優秀新人賞］河原畑祐子（体育2）

■ 体操
第49回東日本学生体操競技選手権大会
［女子団体］総合2位（跳馬3位、段違い平行棒2位、平均台2位、ゆか2位）
［個人］井上和佳奈（体育3）　3位

■ サイクリング部
第32回全日本学生選手権個人ロードレース大会　優勝
［女子個人ロードレース］梶原悠未（体育1）

■ パラカヌー
2016パラカヌー世界選手権大会
［女子スプリントKL1］瀬立モニカ（体育1）　10位
※リオ大会出場決定

■ 硬式野球部
2016年度首都大学野球連盟春季リーグ戦　準優勝

■ 剣道部
第62回関東学生剣道選手権大会
準優勝　加納彰大（体育4）

■ 蹴球部
JR東日本カップ2016 第90回関東大学サッカーリーグ戦1部　準優勝

■ 筑波大学E.S.S.
JNDT（Japan National Debate Tournament）34th（2016）全国大会　優勝
山川遼（国総3）、飯田祐大（社会3）

シャー・ナーメの挿絵に演奏の様子がある

イランの古典楽器タール
浜松市楽器博物館所蔵

ズルハーネ
Pontia Fallahi

伝統的な技能を守る文化

イランでは「古き良きもの」はとても大切にされています。生活に必要なものこそ美しく伝えようという価値観は、イランの文化や生活の様々な場面に表れていると思います。音楽や工芸品といった形のある無しに関わらず、高度な伝統技能を持つ人に対して「マスター」の称号を与え、国全体で古くから伝わる技術とその伝承を守っています。

サマーン朝時代（８７５～９９９年）のフィルドゥシーという有名な詩人は30年以上にもわたって英雄たちの歴史を『シャー・ナーメ』という抒事詩に書き上げました。世界で最も長い詩だと言われていて、私には全部読むことはできません。しかし、美しい韻と抑揚があり、現代でも古典楽器による豊かな演奏と歌、そしてスポーツによって表現されています。街のあちこちには「ズルハーネ」というスポーツジムのような場所があって、男性が集まって筋力トレーニングをしています。このパワースポーツにも３千年の歴史があり、イランの国技でもあるレスリングの練習にも活用されています。

イランの古典楽器「タール」「トンバック」「サントゥール」は、ギターやチェロなどの弦楽器の原型といわれています。いずれもマスターから演奏の技術を習います。独特な音色は少し寂しげです。これらの楽器で演奏される『シャー・ナーメ』の物語をイメージして作られた楽曲は、演武者を力強い気持ちにさせます。文学、音楽とスポーツを合わせた、「バールゼシェ・ズルハーネ・ヴァ・パフラヴァニ」もまた、イランの誇るべき芸術です。

特別なブルー、特別な願い

イランのモスクや宮殿は左右対象で、モザイクなどの装飾が大小に層を成して連なるデザインが多く使われています。そして「フィルゼ」という石が豊富に用いられています。日本ではトルコ石（ターコイズ）として有名です。私たちはこの石の色を「フィルゼイ」と呼び、他のブルーとは区別しています。国や文化によって、見分けられる色が違っているといいますが、イラン人にとって水色、空色、濃い青、淡い青はブルーの仲間。でもフィルゼのブルーは特別にフィルゼイなのです。

私は子どものころ、画家になりたいと思っていました。特に、マハムンド・ファルスチアン氏のペルシャンミニアトールと呼ばれる細密画の作品が大好きで、高校時代は毎日図書室で画集を眺めていました。イラン人は時間を費やして丁寧に細工された複雑で細やかなものに愛情を注ぎます。建築、音楽、絵画、工芸品のすべてに共通している特徴だと思います。この絵画も色、構図、手法が複雑で、私はいつも色々な想像を広げています。

もうひとつの重要な特徴としては、イランの優れた芸術にはどことなく寂しさや悲しさがあると思います。悲しみを乗り越える強さが新しい力になると、偉大な芸術家たちは考えていたのでしょう。私も、そう信じています。

細やかな工芸品の数々

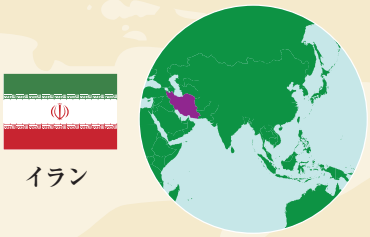
フィルゼイのアクセサリー

ショッピングモールにも

『シャー・ナーメ』の長い物語

Homeland

本学には、100を超える国から、約3千人の留学生が訪れています。
このコーナーでは、本学の留学生から、出身国の自慢の場所や風景、
食べ物など、多岐にわたって紹介していただきます。



イラン

ベヒラード・ニルファー
Behrad Niloofar さん

所属：人間総合科学研究科 体育学専攻 研究生
趣味：YouTubeでシンクロナイズドスイミングの演技を観ること

新年は春の芽吹きとともに

サラーム、こんにちは。私はイランの首都テヘラン出身のニルファーです。昨年10月から人間総合科学研究科の研究生としてシンクロナイズドスイミングと日本語を学んでいます。イランには数多くの世界遺産やおいしい料理もありますが、今日はぜひ、みなさんにイランの美しい伝統文化をご紹介したいと思います。

私の故郷テヘランは高層ビルが建ち並ぶ都会です。そんな街に住む人々の生活の中にもペルシャ時代からの文化が息づいています。

その一つに日本の「お正月」によく似た風習があります。ただしイランのお正月は3月で日本の春分の日に当たります。太陽が地面を照らし、草花が芽吹き、命が躍動する季節に「万物は生まれ変わる」と考えられ、そこから新しい1年が始まります。元旦から12日間、各家庭では「ハフトスィーン」と呼ばれる正月飾りをします。ハフトスィーンには頭文字に「S」の付く7つの物を飾ります。どれも命を大切に思う願いが込められています。その他にも家庭によってロウソクやコーランなども飾ります。カラフルに色付けされたタマゴは、「世界にはさまざまな人種がいて、いずれもかけがえのないものである」という意味が込められています。そして元旦から13日目、私たちはみんな、家族や親しい友人と「初詣」に出かけます。自然と人の友好を結ぶことが厄払いだと考えられているので、ただ散歩をしたり公園でゲームをしたり穏やかに屋外で過ごして、1年の平和を祈ります。素敵だと思いませんか？

ハフトスィーン

いつも眺めていたお気に入りの画集

TOPICS

テクノロジーと音楽の祭典「Innovation World Festa 2016」を開催！

「G7茨城・つくば科学技術大臣会合」(5月15日～17日開催)の前夜祭イベントとして、J-WAVEと筑波大学とが初タッグを組んだ、テクノロジーと音楽のフェスティバル「Innovation World Festa 2016」が5月14日に開催されました。筑波大学大学会館を会場に、日本を代表する各分野のイノベーターやアーティストが集結し、トークセッションやこの日限りのライブパフォーマンスが繰り広げられました。最先端のベンチャー企業によるテクノロジー・ブースの出展、ラジオの公開放送なども行われました。

本イベントは本学学生の発案により、昨夏から準備が進められてきました。実施にあたっては、映像を含めたステージ上の演出や、アーティストとの共演、屋外フードコートの企画、当日の運営など、数多くの学生が様々な場面に携わりました。

音楽プロデューサーにはm-floのVERBALさん、テクノロジー・プロデューサーには本学OBでもあるC Channel株式会社代表の森川亮さんが就任し、MCやパフォーマンスで会場を盛り上げました。天候にも恵まれ、来場者数はおよそ3,000人に上りました。終演後のアフター

筑波大学科学技術週間 キッズ・ユニバーシティ

4月23日、科学技術週間のイベント「筑波大学　キッズ・ユニバーシティ」を開催しました。「科学の面白さや大学の魅力を体験してもらうこと」を目的とした、特別授業、体験教室、工作教室、観察ツアー等、盛りだくさんのイベントです。この名称になって今年で5回目になります。

当日は天候に恵まれ、数多くのキッズや保護者、そしておとなが訪れました。今年は、「キッズユニバーシティ附属おとなユニバーシティ」と題したイベント企画も実施しました！

2012年から毎年配布している「学生証」(有効期限は筑波大学に入学するまで！)は今年も好評で、300名以上のキッズが受け取りました。

キッズ・ユニバーシティの目玉は、大学教員による特別授業。今年は、人間系所属の湯川進太郎准教授による「『からだ』で『こころ』を調える：マインドフルネス入門」(これが、おとなユニバーシティの授業)と、体育系所属の高木英樹教授による「ヒトはどこまで速く泳げるのか？」を実施しました。

過去と未来のことに思いを馳せ、ワクワクドキドキできるのは人間だけです。でも実は、それが落ち込む原因になったりもします。湯川先生の指導の下、そんな風に悩まないためのマインドフルネスという手法をみんなで体験しました。

ヒトが泳ぐようになったのは、必要にかられてのことだったかもしれません。現在は、楽しみやフィットネスのために泳ぐ人も多いはずです。高木先生の講義では、水泳の歴史を振り返るとともに、より速く泳ぐための工夫として、水着の開発と泳法の改良について学びました。ヒトはトラフグよりも泳ぐ効率が悪いというデータにショックを受けた人が多かったかもしれません。

今回の新しい企画として、3Dドームシアター上映会が実施されました。ロビーに大きなエアドームを設営し、シミュレーション研究や最先端三次元計測の結果を立体映像で投影しました。また、「筑波大学地底探検ツアー」と題した建物地下の巨大空間ツアーは、初めての試みにもかかわらず、あっという間に参加申し込みが締め切られました。

来年は4月22日(土)を予定しています。

▲3Dドームの中にはもうひとつの世界が！

▲学長と企画・運営に携わった学生

パーティには島尻安伊子内閣府特命担当大臣も出席され、ラジオ生放送に出演されるなど大盛況のうちに閉幕しました。6月10日には本イベントを企画した学生が学長室を訪問し、今回の成功を報告しました。

第32回 全日本学生選手権　女子個人ロードレース大会で梶原悠未さんが優勝！

6月11日、長野県奥木曽湖にて行われた第32回 全日本学生選手権個人ロードレース大会・女子の部で梶原悠未さん（体育専門学群1年）が優勝しました。この大会は、1周9kmの特設コースを周回し、合計100kmの着順を競うロードレースです。社会人でインカレチャンピオンの実績を持つ選手ら強敵を抑え、2時間57分9秒のタイムで堂々の優勝。梶原さんは、自転車競技において2020年東京オリンピックでの活躍が期待されている若手選手の一人です。

TOPICS

筑波大学セキショウフィールド完成！

第2サッカー場の人工芝敷設工事が完了し、4月27日に同グラウンドで竣工式が開催され、新グラウンド「筑波大学セキショウフィールド」がお披露目されました。

式典には、永田恭介学長をはじめ、今回の工事をご寄付いただいた関彰商事株式会社の関正樹代表取締役社長、施行主である長谷川体育施設株式会社の森川司代表取締役社長のほか、本学の教職員・学生など、学内外の関係者約200人が出席し、新グラウンドの完成を祝いました。

竣工式では、関正夫代表取締役会長から「地域に根付いた企業として大学に協力できてこれ以上の喜びはない」との挨拶があり、永田学長からは「授業・課外活動での活用はもちろん、できる限り市民に開放していきたい」と謝辞が述べられました。

また、テープカット後の始蹴式では、永田学長がサッカーボールをゴールに蹴りこみ、ゴールが決まると関係者から拍手喝采が送られました。

5月7日にはオープニングゲームとして、本学と慶應義塾大学との女子ラクロスと、本学と神戸大学とのアメリカンフットボールの試合が行われました。

国際植物の日関連イベント「筑波大学みどり散歩」

毎年５月18日は植物の大切さや植物科学の面白さを、より多くの人々とともに見直して共有するための「国際植物の日」にあたることから、本学では22日に総合研究棟Ａにて、「筑波大学みどり散歩」を実施しました。

今回初めての試みとしては、県内の高校に呼びかけ、高校生の研究ポスター発表会を実施しました。当日は茨城県立日立第一高等学校、茨城県立竜ヶ崎第一高等学校、茗渓学園高等学校、常総学院高等学校の４校が参加し、松本宏生命環境系長から特別優秀表彰を受けました。

また、一般社団法人ガールスカウト茨城県連盟から茨城県第18団と茨城県第８団が参加し、それぞれの植物に関連した活動を発表紹介しました。東京フード株式会社は今年も「五感で愉しむチョコレート」展を実施し、カカオ豆の産地の違いによる食べ比べとミニレクチャーが人気を呼びました。

特別講演、田村憲司教授の「森林と土壌」と中山剛准教授による「藻類と植物の学名秘話」も実施されました。

つくば駅に隣接する複合商業施設BiViつくば内にある筑波大学サテライトオフィスでは「めずらしい植物展」、国立科学博物館筑波実験植物園では「五感で発見！まるごと楽しむ植物園」、つくばエキスポセンターでは「熱帯・亜熱帯の海辺の森～マングローブの魅力～」、別の日に行われた関連イベントとしては、菅平高原実験センターの「高原の植物観察～森と草原から学ぶ歴史と多様性～」、バイオｅカフェ「水草はどこから来た」も開催されました。

看板メニューとなっている上條隆志教授による植物ガイドツアーは今年も大人気。総合研究棟Ａ、サテライトオフィス、実験植物園、エキスポセンターを巡るスタンプラリーにも、例年以上に多くの人が参加しました。

サテライトオフィス学生スタッフだより

筑波大学春のプチフェス を開催！（4/24~5/22）

筑波大学の研究や活動をパネルや実物を通して紹介しました

スタンプラリーを行いました

１週間ごとにスタンプを更新し、全部集めると「筑」「波」「大」「学」が完成します。参加者には大学グッズセットをプレゼント。

塗り絵にチャレンジ！

G7・つくば科学技術大臣会合の開催に合わせて、来館者みんなで、大きな世界地図のぬり絵を完成させました。

研究内容の紹介

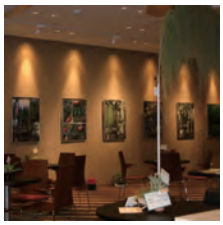
エンパワーメント情報学プログラムの作品展示では、看護や介護などに貢献する機器を映像とともに紹介しました。パネルでは人文社会系の研究も紹介しました。

長持ちトマト

筑波大学とみかど協和株式会社が共同開発した、長持ちするトマトを４週間に渡って展示・観察しました。新鮮なまま最終日を迎えました！

めずらしい植物展

5/12(木)~5/22(日)開催



筑波大学 adp ぷらんた 16* の企画による「めずらしい植物展」が開催されました。筑波実験植物園で育てられている風変わりな植物たちを、視覚・嗅覚・触覚で愉しんでいただきました。

*adp ぷらんた 16 は、芸術専門学群の授業「アート・デザイン・プロデュース（adp）演習」の中のプロジェクトチームのひとつで、筑波実験植物園と共同で活動しています。

会場の一番人気「トルコボウサボテン」。名前の通り花座（花の茎）がトルコ帽にそっくりです。本物のトルコ帽と並べて展示しました。

筑波大学サテライトオフィスをご活用ください

つくば駅に隣接する筑波大学サテライトオフィスは、様々な企画を通して、日頃の研究や活動の紹介をするスペースです。教職員・学生の皆様のご利用をお待ちしております！　by 学生スタッフ

受賞
Award and Prizes

教職員

受賞名	受賞者	所属
平成27年度小児医学研究振興財団アワード	山岡祐衣助教	医学医療系
第10回（2016年）日本物理学会 若手奨励賞	近藤剛弘准教授	数理物質系 学際物質科学研究センター
日本語教育方法研究会 第七回奨励賞	山田野絵非常勤講師	グローバルコミュニケーション教育センター
紫綬褒章	柳沢正史教授	国際統合睡眠医科学研究機構長
日本都市計画学会 平成28年度論文賞	松原康介准教授	システム情報系
日本エピジェネティクス研究会 平成28年度奨励賞	松崎仁美助教	生命領域学際研究センター
日本産業衛生学会 優秀査読者賞	三木明子准教授	医学医療系
日本産業衛生学会 産業衛生学雑誌 優秀論文賞	大塚泰正准教授	人間系
電気学会 第25回業績賞	嶋田隆一特命教授	数理物質系
エネルギー・資源学会 第4回茅賞	鈴木研悟助教	システム情報系
第4回常陽ビジネスアワード 最優秀賞（成長事業部門）	山際伸一准教授	システム情報系
2015年度情報処理学会フェロー	朴泰祐教授	計算科学研究センター
第51回小島三郎記念技術賞	南木融臨床検査技師長	附属病院検査部

生理学・神経科学研究の功績が認められ、柳沢正史教授が紫綬褒章を受章

柳沢正史教授（国際統合睡眠医科学研究機構長）が、生理学・薬理学・神経科学分野の研究における多大な功績を認められ、2016年4月に春の紫綬褒章を受章しました。柳沢教授は本学の大学院生として在籍していた1987年に生理活性ペプチド・エンドセリンを発見し、その血管収縮作用とその作用機構を解明するという業績を挙げました。さらに、神経ペプチド・オレキシンを発見、この物質が睡眠／覚醒を直接制御していることを明らかにし、睡眠医科学の発展に大きく貢献してきました。

紫綬褒章は「科学技術分野における発明・発見や、学術及びスポーツ・芸術分野における優れた業績」を挙げた者に贈られる栄誉です。

▼日本都市計画学会
平成28年度論文賞

松原康介准教授

▼日本エピジェネティクス研究会
平成28年度奨励賞

松崎仁美助教

▼日本セラミックス協会
2015 JCS-JAPAN 優秀論文賞

鈴木義和准教授（左）、牧涼介さん（右）

学生・大学院生

受賞名	受賞者（所属・学年）	指導教員
情報処理学会 HPCS2016 最優秀論文賞	佐藤賢太 （システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻 博士前期2年）	朴泰祐教授（計算科学研究センター）
日本生態学会第63回大会ポスター優秀賞	竹島綾乃 （生命環境科学研究科 生物資源科学専攻 区分制前期2年）	山路恵子准教授（生命環境系）
Laval Virtual Awards 2016: Environment & Health部門 最優秀賞	西田惇 （グローバル教育院エンパワーメント情報学プログラム 一貫制博士2年）	鈴木健嗣准教授（システム情報系）
日本セラミックス協会 2015 JCS-JAPAN 優秀論文賞	岡本裕二 （数理物質科学研究科 物性・分子工学専攻 博士後期1年）	鈴木義和准教授（数理物質系）
日本セラミックス協会 2016年年会優秀ポスター発表賞	牧涼介 （数理物質科学研究科 物性・分子工学専攻 博士後期3年）	鈴木義和准教授（数理物質系）
2016 International Student Conference on Environment and Sustainability（ISCES）プレゼンテーション部門1位	AHMAD JOHAN Syafri Mahathir （生命環境科学研究科 持続環境学専攻 博士後期2年）	雷中方准教授（生命環境系）
2016 International Student Conference on Environment and Sustainability（ISCES）ポスター部門優秀賞	AHMAD JOHAN Syafri Mahathir （生命環境科学研究科 持続環境学専攻 博士後期2年）	雷中方准教授（生命環境系）
2016 International Student Conference on Environment and Sustainability（ISCES）プレゼンテーション部門3位	Huang WeiWei （生命環境科学研究科 持続環境学専攻 博士後期3年）	張振亜教授（生命環境系） 雷中方准教授（生命環境系）
2016 International Student Conference on Environment and Sustainability（ISCES）ポスター発表部門3位	Zhu Yucheng （生命環境科学研究科 持続環境学専攻 博士後期3年）	氷鉋揚四郎教授（生命環境系）

※所属・職名・学年は受賞時

西田惇さん

ヨーロッパ最大のバーチャルリアリティ・コンベンションで2年連続の最優秀賞受賞

フランス・ラバルで開催された Laval Virtual 2016: 18th International Conference and Exhibition of Virtual Technologies and Usesの国際コンペティション部門 Laval Virtual Awards 2016にて、西田惇（グローバル教育院　エンパワーメント情報学プログラム　一貫制博士2年※受賞時）さんの作品「bioSync」がEnvironment & Health部門で最優秀賞を受賞しました。昨年に続き2年連続の受賞となります。

同作品は、「Microsoft Innovation Award 2016」の最優秀賞及び日本航空アントレプレナー賞、「23th IEEE Virtual Reality Conference」でHonorable Mention for Best Research Demo、「一般社団法人 情報処理学会シンポジウム インタラクション2016」にてインタラクティブ発表賞（PC推薦）をあわせて受賞しています。

▼情報処理学会
HPCS2016 最優秀論文賞

佐藤賢太さん（左）、朴泰祐教授（右）

▼第4回常陽ビジネスアワード
最優秀賞（成長事業部門）

山際伸一准教授（右）

▼黒住医学研究振興財団
第51回小島三郎記念技術賞

南木融臨床検査技師長

海外オフィスから

戦後台湾における日本語教育の源流は筑波大にあり

本年4月に本学と全学協定を締結した東呉大学は、日本語教育に定評のある台湾の私立大学です。その日本語学科を設立時から支えたのは、筑波大学の前身である東京教育大学で学んだ蔡茂豊（さい もほう）名誉教授でした。
※協定締結にあたり、本学永田学長と蔡先生との対談が実現しました。
その詳細は、筑波大学台湾オフィスWebサイト（http://www.kokuren.tsukuba.ac.jp/overseas_offices/taiwan/）に掲載しています。

台湾では現在、最もポピュラーな第二外国語として多くの人が日本語を学んでいます。その背景には、日清戦争以降の統治の波に翻弄された、国語教育の歴史があります。特に日本語に関しては、わずか100年ほどの間に、国語として教育された時代と、その使用を禁じられた時代とがありました。

蔡茂豊先生は、この両時代の影響下で日本語を学び、戦後、台湾の国語が北京語になった後、外国語としての日本語教育の礎を築いてきました。本学とのつながりは、日本政府の国費留学生として東京教育大学にやってきた1962年にさかのぼります。国語学と国文学を研究して台湾に戻り、以来、東呉大学の日本語学科で日本語教育に携わってきました。当初は、日本語教育の方法論は確立されていませんでした。そこで、共通の言語を使うグループごとに、その言語で日本語を教える「語族別日本語教育」を自ら考案し、実践しました。1980年に、筑波大学で学位を取得されましたが、これは、台湾初の日本語教育分野での博士号です。

蔡先生のもとで日本語教育を学び、本学へ留学した人もたくさんおり、彼らが、台湾におけるその後の日本語教育を担っています。学生を自分のきょうだいや子どものように思い、学問だけにとどまらず、親身に、そして情熱を持って接する――蔡先生の教育者としての姿勢も、日本語教育とともに広まっています。

【蔡茂豊　東呉大学名誉教授　略歴】

1933年台湾屏東生まれ。1962年日本政府の国費留学生として東京教育大学文学研究科国語国文学科へ留学（1965年修士）。1973年東呉大学（台湾）日本語学科主任。1980年筑波大学博士。2005年台湾における日本語教育普及に対する貢献により旭日中綬章受章（1972年日台断交後初の台湾人の褒章）。現在、台湾全国に40以上ある日本語教育関連学科の主任の約半数を教え子が占める。

【台湾文化ウィーク 開催!】

台湾の様々な文化を楽しむ5日間

期間：2016年9月16日（金）～20日（火）
会場：筑波大学サテライトオフィス
（TXつくば駅前　BiViつくば2階）

紫峰会基金（筑波大学学生支援事業）

5月27、28日、平砂学生宿舎地区にて第42回筑波大学宿舎祭「やどかり祭」が開催され、紫峰会基金より援助金30万円を贈呈しました。27日の前夜祭では、野外ライブや縁日などが行われ、本祭さながらの賑わいを見せました。1年生を中心とした多種多様な模擬店も祭りを彩りました。前夜祭のラストを火文字が飾り、「攻」の文字が明るく燃え上がると、参加者から大きな歓声が起こりました。

28日の本祭では、名物の「御輿」が登場し、1年生が作った個性あふれる御輿が会場を練り歩き、派手なパフォーマンスを演じました。夜には最大のイベントである「ゆかたコンテスト」が行われ、会場は参加者で埋め尽くされました。浴衣を身にまとったゆかコン嬢を中心に、学類・学群の特徴あるパフォーマンスを披露し、会場全体は大いに沸きました。

茗渓会　MEIKEIKAI ／ 筑波大学同窓会を母体とする一般社団法人

茗渓会代議員総会

5月26日、平成28年度の定時総会が開催され、平成27年度事業報告、平成28年度事業計画などの審議のほか、役員の改選が行われ、江田昌佑理事長が再選されました。総会後の懇親会では、筑波大学の弘山勉准教授（体育専門学群1989年卒）から「箱根駅伝復活プロジェクト」への協力依頼があり、第1回箱根駅伝の優勝が高等師範学校（筑波大学前身校）であったことから出席者から「期待している。応援したい。」など熱い声援が聞かれました。

茗渓・筑波大学産業人会

毎月第3水曜日午後7時から、東京茗渓会（会長 高橋基之氏、自然学類1978年卒）主催の異業種交流会「茗渓・筑波大学産業人会」が茗渓会館で開かれていますが、初回から既に1年を経過し、益々充実してきており、最近の題目は、「スポーツ・フィットネス関連業界の動向と経営」（藤田文武氏（株）KTAJ 代表取締役 体育専門学群2004年卒）、「2016・2017新卒採用の事例と今後の動向」（藤村優香理氏（株）人材研究所 採用支援事業部 エグゼクティブマネージャー兼 事業・人材開発部部長 人間学類1986年卒）など、各界で活躍するOB・OGのリアルな情報が詰まっています。交流会幹事から、学生も参加してほしいとの呼びかけがありました。
詳しい内容はこちらから→ http://www.meikei.or.jp/

教職受験対策研修会

3月10～12日、茗渓会と筑波学都資金財団の共催で、教職受験対策研修会が実施されました。29回目を迎えた今年は、56名の学群3年生及び大学院生が受講生として参加しました。学生の合格を願い、教育界の指導的立場にある茗渓会の先輩会員が、教育課題等について講義、論文指導、面接・討論指導などを行いました。今年もその成果を発揮し、一人でも多くの合格を祈念しています。

01

人間系准教授

山中 克夫 さん

研究室でする打ち上げのようなイベントは、以前は飲み会ばかりでしたが、最近は飲めない人が多いので、つくば付近で人気のあるお店でランチをすることにしています。日中に時間をとるのはなかなか難しく、滅多にいけるものではありませんが、飲み会と同じ、あるいはそれよりも安い値段でデザートまで楽しめますし、とても幸せです。学生もお店選びには積極的で、また、自分は仕事一辺倒な方で、ゲストがいらした時に、どこにお連れしたらよいやらわからない方でしたので、お店を知る機会にもなって、ありがたく思っています。写真はみんなで、Amiciでイタリアンの食事をしたときのものです。

筆者左から三番目

NEXT

次回は、生命環境系教授の上條隆志さんです。
『上條先生とは、子どものスポーツのサークルの付き添い、お手伝いを通じて知り合いました。ご専門は火山島における森林生態系ということで、私と全く異なり、調査の折のお話を大変楽しく聞かせていただいておりました』

02

人文社会エリア支援室

高澤 南 さん

休日は、月に２回ほど職員サークルの方々と一緒にテニスをしています。写真はそのときの様子ですが、今回は新しい趣味について書きたいと思います。今年に入ってから、職場の友人と５人でアカペラを始めました。業務後や休日に時間を見つけ、集まって練習しています。初心者ですが、経験者のメンバーに教えてもらいながら、一人ではできないハーモニーの魅力を楽しんでいます。いやなことがあっても、歌うとすっきり。一緒に歌う友人ができて嬉しく思います。これからいろんなジャンルの曲を歌ってみたいです。このひろい筑波大学で、あなたも共通の趣味を持つ友人がきっと見つかるはずです。

NEXT

次回は、産学連携部産学連携企画課の太田大輔さんです。
『昨年、学内の英会話研修でお友達になり、今年も同じクラスでお世話になっています』

ツクバでツナガるリレーエッセイ

05

医学医療系講師

大城 幸雄 さん

わが家ではネザーランド・ドワーフというメスのウサギを飼って４年になります。オランダに起源を持ち、絵本「ピーターラビット」のモデルです。「フム」と娘に名付けられたウサギはいつも鼻を「フムフム」させています。小屋ではじっとしていますが、時々ダン！と足音を鳴らして驚かせます。大人になってもペレットをモグモグ食べています。たまに小屋から出すと飛び跳ねて喜んでいるようです。捕まえると「ブーブー」と鳴いて怒ることがあります。ウサギの習性か床を前足で掘ろうとします。機嫌が悪いときは引っ掻いたり噛みついたりします。そんなフムは家族の一員として楽しく暮らしています。

NEXT

次回は、システム情報系准教授の掛谷英紀さんです。
『多分野にわたって造詣が深く医工連携プロジェクト夜の部では欠かせないご意見番です』

06

システム情報エリア支援室

辻 芳江 さん

ホットヨガを知ったのは、２年前になります。たまたま降りた駅のホームでホットヨガのポスターを見て、即、入会したのが始まりです。イスに座っていることが多いので、夕方になるといつも足がむくんでいました。ホットヨガを始めてからは、足のむくみも軽減されて、なにより、ものすごい量の汗を流してスッキリします。私にとっては難しいポーズもありますが、自分のペースで無理せずにでき、自分の心と身体を見つめる時間でもあります。これからも興味のあることには、色々チャレンジしたいと思っています。（写真は、ヨガのポーズの練習をしているところです）

NEXT

次回は、附属聴覚特別支援学校の山本晃さんです。
『附属聴覚ではお世話になりました。いつも明るくて、一緒にいると元気になります。そんな愛されキャラです』

03

医学医療系講師

岡本 嘉一 さん

娘がサッカーをはじめたことをきっかけに、2年ほど前からフットサルを始めました。華麗な足技に目がいきがちですが、いざはじめてみると瞬間的に状況を俯瞰する能力がたいへん重要であることがわかりました。つまり常に3秒後、5秒後のグラウンドの状況を予測、判断しながら走る必要があるのです。そしてこのイメージがぴたりと決まった時はなんともいえない快感です（めったにありませんが…）。運動量もたいへん多く、ひたすらダッシュ、ダッシュでいつもぜいぜいいいながらプレーしています。職種も年代も違う人たちとの交流も大変楽しく、私の週末のひそかな楽しみになっています。

NEXT 次回は、病院総務部総務課の安保由加さんです。『困ったときは安保さん頼み！というほど親切でとても頼れる女性です。いつも無茶振りすみません』

04

生命環境系准教授

加藤 弘亮 さん

私の幼少時代は、コンクリートジャングルの東京に生まれ育ちながらも、未知のフィールドを求め、勉強はそっちのけで身近な自然を探しては駆けめぐる日々をすごしました。2人の兄もアウトドアが大好きで、大人になってからは兄弟で得意分野を分担して、山に川に海にと遊ぶフィールドを選びません。最近では、カヌーツーリングが趣味の長兄の影響もあり、日の出前に愛車にカヤックを搭載し、釣り具を携えて三浦半島や房総の海に漕ぎ出しています。どこに行っても混雑しがちな陸を離れて、あなたも大海に漕ぎ出してみませんか？

筆者一番左

NEXT 次回は、数理物質系助教の山崎信哉さんです。『部門は異なりますが、同センターの同僚の先生です。いつもウィットに富んだお話で和ませてもらってます』

5000人を超す教職員がいる本学。
その中で生まれた人と人とのつながりを、8本のバトンが渡っていきます。

07

学術情報部情報基盤課

嶋田 君枝 さん

長年趣味として続けてきた生け花。ご縁があって、今年の4月から本学学生サークルの池坊華道部で、生け花の指導を始めました。明るく熱心な生徒さん達に囲まれ、その柔軟な発想力に刺激を受けながら、花と向き合う楽しさと命の大切さを生徒さん達に伝えていくことを目標に毎週お稽古に励んでいます。お稽古のある木曜日は4月からほぼずっと雨に降られていて、スッキリと晴れたのは1日だけ。どうやら強力な雨女がいるのでは？という話になりましたが、お稽古に皆勤しているのは、一緒に指導に当たっている先生と私の2人だけでした。雨女はどっち？

筆者右上

NEXT 次回は、教育推進部教育機構支援課の志賀辰哉さんです。『eラーニング委員会でお世話になっています。突然の無茶振りでも、冷静に対応してくださる快男子です』

08

生命環境エリア支援室

大場 彩 さん

地元山形のサッカーJ2モンテディオ山形を応援しています。日程の関係で中々行けませんが、ホームの時はメインスタンドで大人しく、アウェイの時は時々アウェイゴール裏に潜り込み、跳ねて歌って手を叩いたりしながら応援しています。勝った時は全力で喜び、負けた時は本気で悔しがるという日々が1年の内10カ月近くを占めます。サッカー観戦がなければ行かなかったであろう土地に初めて行くのも楽しいし、モンテを応援するとともに故郷のことも常に気にかけるようになりました。故郷を背負って戦う選手達はサポーターの誇りです。今年はあと何回か遠方に遠征したいなあと思っています。

NEXT 次回は、医学医療エリア支援室の圍城寺仁美さんです。『新規採用で一緒に病院部医事課（当時）に配属された時からの仲です。優しい楽しい頼れる癒し系です！』

※所属・職名は2016年6月現在

Media Appearances

本学関係の主な新聞掲載・テレビ放送一覧（4月～6月）

新聞記事一覧

	記事内容	掲載本学関係者	掲載紙（掲載日）
1	男子柔道81㌔級 リオ五輪日本代表に昨年度本学を卒業した永瀬貴規選手が決定	永瀬貴規（OB　旭化成）	朝日・毎日（4.5）
2	浜野淳講師と神戸大らは、予後が月単位で見込まれるがん患者では、在宅と入院とで生存期間に有意差がないことを確認	浜野淳講師（医学医療系）	読売（4.5） 朝日（4.6） 東京・茨城・日経（4.7） 毎日（4.7）夕
3	本学と国際基督教大学が大学間連携協定を締結。互いの強みを生かし、教育内容を充実させ、今年度から相互履修が可能に	永田恭介学長	毎日・産経・日経・日刊工業（4.7） 日経産業（4.18） 常陽（5.25）
4	競泳・日本選手権男子200㍍背泳ぎで金子雅紀さんが2位。五輪派遣標準をクリアし、リオ五輪出場を決めた	金子雅紀（人間総合体育博士前期2年）	読売・日経・東京（4.10） 朝日・産経（4.12）
5	青沼和隆教授、山崎浩講師らは、発作性心房細動の新たな治療法「高周波ホットバルーンカテーテル心筋焼灼術」に保険治療として国内初成功	青沼和隆教授（医学医療系） 山崎浩講師（医学医療系）	毎日（4.10） 読売（4.12） 朝日（4.13）
6	寄付する文化広めたいと、OB福田成康さんが「筑波大学ピアノ愛好会」に最高級のグランドピアノを寄贈	福田成康（ＯＢ　全日本ピアノ指導者協会） 藤生千尋（人文3年）	常陽（4.12）
7	本学と独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）が包括的連携協定を締結。「レギュレトリーサイエンス」の振興と人材育成の体制などを強化		日刊工業（4.14）
8	熊本地震の被災者支援に茨城県災害派遣精神医療チーム（DPAT）が茨城から初出動	松村明附属病院長 高橋晶准教授（医学医療系） 根本清貴准教授（医学医療系） 太刀川弘和准教授（医学医療系　保健管理センター長）	朝日・産経・東京（4.21） 東京（4.21）夕 茨城（4.22） 常陽（5.18）
9	本学計算科学研究センターと筑波山神社は、筑波山山頂での気象観測の拠点として「筑波山神社・筑波大学計算科学研究センター共同気象観測所」を設置。自然科学分野で国立大学と神社が協力するのは極めて珍しい取り組み	梅村雅之教授（計算科学研究センター長） 日下博幸准教授（計算科学研究センター）	読売・常陽（4.22） 読売（4.23） 毎日（4.26）
10	北陸先端科学技術大と高谷直樹教授らは、遺伝子組み換え微生物を用いたバイオプラスチックを合成、世界最高強度の透明樹脂を開発	高谷直樹教授（生命環境系）	日刊工業（4.25）
11	科学技術振興機構は「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に本学など10機関採択		日経産業（4.26）
12	柳沢正史教授、生理学・薬理学・神経科学分野における功績により、紫綬褒章を受章	柳沢正史教授（国際統合睡眠医科学研究機構長）	朝日・毎日・読売・産経・東京・茨城（4.28）
13	本学第2サッカー場が人工芝に改修され、サッカーだけでなく、アメリカンフットボールやラクロスの試合もできる「筑波大学セキショウフィールド」に生まれ変わった	永田恭介学長	毎日・産経・茨城・常陽（4.28）
14	杉浦成昭さん、2016年春の叙勲 瑞宝中綬章を受章	杉浦成昭名誉教授	朝日・毎日・読売・産経（4.29）
15	大日本印刷と本学などは、「おもてなし」をテーマとした小学校向けデジタル教材を開発	真田久教授（体育系） 江上いずみ（客員教授・附属学校教育局）	日経産業（5.2）
16	つくば市選挙管理委員会は、学生からの強い要望を受け、本学に期日前投票の設置を決めた		毎日・読売・茨城・常陽（5.10） 朝日・東京（5.11）
17	本学と東京大は、「京」の2倍の計算速度の国内最高性能スーパーコンピューターを共同で導入することを発表	計算科学研究センター	読売・日経（5.11） 朝日（5.19）
18	澁谷彰教授、本多伸一郎研究員と東大らは、敗血症の発症を促進する新しい免疫細胞を世界で初めて発見	澁谷彰教授（生命領域学際研究センター）	日刊工業・日経産業（5.11） 読売（5.24）
19	本学学生らが廃材などを活用し改修を進めていたバスターミナルの待合室が完成。市民の交流スペースとしての利用にも期待	栗原広佑（人間総合博士後期芸術1年）	読売・常陽（5.12） 茨城（5.13） 毎日（5.19） 東京（5.27）
20	慶應義塾大と新井達郎教授らは、細胞の観測に有効な、蛍光物質に代わる新たな専用色素の開発と応用に成功	新井達郎教授（数理物質系　学際物質科学研究センター） 百武篤也講師（数理物質系　学際物質科学研究センター） 福嶋瞬（ＯＢ）	日刊工業（5.12） 日経産業（5.23）
21	本学とJ-WAVEは、G7茨城・つくば科学技術相会合の公式プレイベントとして、テクノロジーと音楽の祭典「INNOVATION WORLD FESTA 2016」を開催	山海嘉之教授（システム情報系　サイバニクス研究センター長） 落合陽一助教（図書館情報メディア系）	常陽（5.16）
22	陸上関東学生対校選手権　女子は、24年連続26回目の総合優勝 各種目1位 ＜女子＞【走り幅跳び】山田優　【三段跳び】剱持早紀　【ハンマー投げ】勝山眸美（大会新、4連覇）　【1600㍍リレー】薬師寺真奈、平野綾子、新木詩乃、松本奈菜子 ＜男子＞ 【400㍍リレー】山下航平、山下潤、東田旺洋、魚里勇介　【走り高跳び】平松祐司（2連覇） 【三段跳び】山下航平（リオ五輪参加標準記録突破）	山田優（体専4年）　剱持早紀（体専4年）　勝山眸美（体専4年）　薬師寺真奈（体専3年）　平野綾子（体専4年） 新木詩乃（体専1年）　松本奈菜子（体専2年） 山下航平（体専4年）　山下潤（体専1年）　東田旺洋（体専3年）　魚里勇介（体専4年）　平松祐司（体専2年）	朝日（5.20／21／22／23） 毎日（5.20／22） 読売（5.20／21／22／23） 茨城（5.20／22／23） 産経（5.22／23）
23	本学が「大学の世界展開力強化事業」採択のアセアン横断型グローバル課題挑戦的教育プログラム中間評価で全国7大学中、唯一「S評価」を受けた		常陽（5.24）
24	巨瀬勝美教授、寺田康彦准教授らは、コンパクトMRIを開発し、樹液の流れの可視化に世界で初めて成功	巨瀬勝美教授（数理物質系） 寺田康彦准教授（数理物質系） 長田晃佳（数物電物博士前期2年）	常陽（5.26）
25	和田洋教授と基礎生物学研などは、サカナのエラが繰り返しパターンでつくられる仕組みを解明	和田洋教授（生命環境系） 岡田和訓（OB　基礎生物学研究所）	日刊工業（5.26）
26	国際植物の日イベント「筑波大学みどり散歩」において、上條隆志教授による植物観察ガイドツアーなどを実施	上條隆志教授（生命環境系）	常陽（5.28）
27	本学水泳部がリオへ壮行会。オリンピック・パラリンピックへの出場選手5人の活躍を祈念	金子雅紀（人間総合体育博士前期2年） 志水祐介（OB　ブルボンKZ） 保田賢也（OB　ブルボンKZ） 棚村克行（OB　ブルボンKZ） 山田拓朗（OB　NTTドコモ）	朝日（5.29） 常陽（5.31）
28	本学附属病院と一誠商事は、陽子線治療を受ける小児がん患者と家族に対し、安価で近隣住居を提供し支援する「キッズハウスプロジェクト」を開始	松村明附属病院長	読売・常陽（6.4）
29	本学などのチームは、介護が必要になる一歩手前の虚弱（レイフル）状態でも、3割は改善していたとの追跡調査をまとめた	山田実准教授（人間系）	読売（6.9）
30	馬場忠教授、兼森芳紀助教と阪大、理研らは、哺乳類の精子頭部が正常に形成されるために必要なたんぱく質を発見	馬場忠教授（生命環境系） 兼森芳紀助教（生命環境系）	日経産業（6.16） 日経（6.17）

テレビ放送一覧

	内容	出演本学関係者	放送局・番組（放送日）
1	障害による差別の解消に向けた取り組みについて	柘植雅義教授（人間系　附属大塚特別支援学校長）	NHK総合／Eテレ 視点・論点 （4.20）
2	頭痛で見つかる危険な病気	武川寛樹教授（医学医療系）	テレビ東京 主治医が見つかる診療所 （4.25）

Event Calendar

7 july

1日（金） 研究基盤総合センター6MVタンデム加速器完成記念式典 科研費獲得支援キックオフイベント 学際物質科学研究センター研究交流会

5日（火） GC Chat in Japanese（8、12、15、19、22、26日） Cosmos Café（12、19、26日）

6日（水） Cosmos Chat（13、20日）

7日（木） 障害学生支援懇談会（2B412） GC Chat in English（11、14、21、25日）

8日（金） 第8回天文宇宙の七夕講演会

16日（土） 入学試験「編入学」（～17日） 「帰国生徒（10月入学）」

24日（日） City Chat Café （LALAガーデンつくば）

27日（水） 合格発表「編入学/帰国生徒（10月入学）」 平成28年度筑波大学プラズマ研究センターシンポジウム・核融合フォーラム第1回ダイバータ物理・工学研究会合同会議（～28日） 第1回DACセンター講習会（全学FD研修会） 障害者差別解消法施行後の本学の対応のあり方を考える（2B412）

8 august

3日（水） 春ABCモジュール期末試験（～9日）

6日（土） 大学説明会（～7日）

9日（火） 春学期授業終了

10日（水） 期末試験予備日

11日（木） 大学説明会、夏季休業（～9/30）

29日（月） 第4回TIAナノグリーン・サマースクール（～31日） 第4回TIAナノエレクトロニクス・ナノテクノロジーサマースクール（～9/1） SUMMER LECTURE in 2016 B（～9/9）

30日（火） 第3回先端計測・分析サマースクール（～9/1） 高機能ナノ微細加工実習コース（～9/2）

9 september

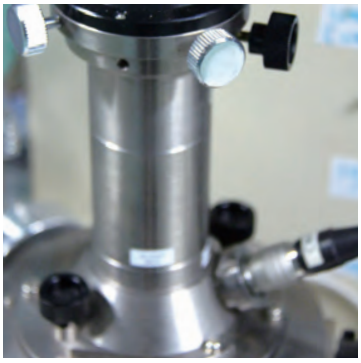
1日（木） Interdisciplinary Workshop on Science and Patents（IWP） 2016（～4日）

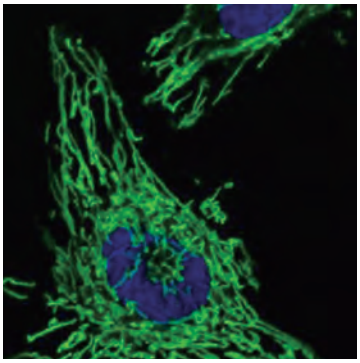
16日（金） 台湾ウィーク（～20日）（筑波大学サテライトオフィス 他）

17日（土） Tsukuba Global Science Week （TGSW）2016（～19日）（つくば国際会議場）

25日（日） City Chat Café（Student Commons）

27日（火） 第2回DACセンター講習会（全学FD研修会） 障害者差別解消法施行後の本学の対応のあり方を考える（国際会議室）





University of Tsukuba

TSUKUBA COMMUNICATIONS（筑波大学広報誌） VOL. 32
平成28年7月発行　編集・発行：筑波大学広報室
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1
電話：029-853-2063　E-mail：kohositu@un.tsukuba.ac.jp
URL：http://www.tsukuba.ac.jp/
©2016筑波大学（本紙記事の無断転載を禁じます）